

平成 31 年度沖縄県認知症支援推進事業  
若年性認知症支援者研修会 中部地区開催 報告書

1. 研修会名：「平成 31 年度沖縄県若年性認知症支援推進事業 若年性認知症支援者研修会」
2. 目的：若年性認知症の一人ひとりが、その状態に応じた適切な支援が受けられることを目的とする。
3. 主催：沖縄県（受託 特定医療法人アガペ会）、 共催：認知症疾患医療センター
4. 対象：若年性認知症の初期対応相談窓口職員（市町村役場担当窓口職員・地域包括支援センター職員・認知症地域支援推進員・認知症初期集中支援チーム員・介護支援専門員・医療機関相談員・介護保険事業所の相談員など）を対象とする。
5. 方法：平成30年度作成 本人・家族のための若年性認知症支援ハンドブック第二版（沖縄県）並びに支援者のための若年性認知症支援ガイドブック（沖縄県）をテキストとして配布し、支援内容について沖縄県若年性認知症支援コーディネーターが説明を行う。
6. 開催地区並びに開催日、会場について

開催地区	開催日及び時間	会場と定員
本島中部地区	2019年6月11日（火） 14時～16時（受付13:50から）	ちゃたんニライセンターカナイホール 定員100名（北谷町字桑江467-1）

7. 参加費：無料
8. 申し込み方法：専用申し込み用紙あり。用紙のない方は、開催地区を明記したうえで、氏名、所属先、連絡先を記入しFAX（098-943-4702）まで。  
申し込み期間：平成31年4/1～各地開催日の前日まで。先着順とした。
9. テキスト：当日配布。
10. プログラム

司会進行・講師：若年性認知症支援コーディネーター

内容：ハンドブック、ガイドブックに沿って説明し、注意事項を伝達する。

1	県の現状	10分	はじめに、頁説明
2	医療	20分	気づき、診断されたら、医療との連携、病態について
3	制度	40分	利用できる制度について、障害者福祉制度、介護保険
4	仕事	15分	仕事について
5	子ども・車・生活	15分	子どもの支援、車の運転について、生活について、これからのこと
6	相談窓口	10分	交流会、家族会の紹介、相談窓口、資料について

11. 広報

2019年4月1日 北部圏域へ認知症疾患医療センター宮里病院より発信

2019年4月23日沖縄県若年性認知症支援推進事業より

広報チラシの発送県内477件

県高齢福祉課発信：FAXにて県内医療福祉関係機関へ発信

12. 事前申し込み状況 申し込み者 100名

13. 当日の様子 当日参加者数 89名

内訳：医療3名、介護保険事業所44名、行政15名、包括24名、就労1名、その他2名

運営：認知症疾患医療センター2名（北中城若松病院）

#### 14. 内容（特にお伝えしたこと）

相談対応の現状に対応した項目となっており、各内容については、ワーキングチームによる見解並びに確認作業によって完成されたことをお伝えした。

1	県の現状	ガイドブック P1 を読み上げる。若年性認知症支援コーディネーターの支援始まり、単身者が多い現状と、それに伴い介護者も高齢で支援が必要な状況であったことなどを説明。手続きの詳細など情報も必要となり、今回の支援者向けガイドブック作成に至ったことを説明。
2	医療	物忘れ＝認知症ではない。内科疾患も多い。気付き方は様々であるが、MC I も診断される。支援者の自己判断ではなく、エピソードをしっかりとめ、医療へ繋ぐことが望ましい。医療との連携で、かかりつけ医への相談後、鑑別診断が必要な場合には、認知症疾患医療センターへ相談という手続きを説明。認知症疾患医療センターへの繋ぎ方や鑑別診断に伴う費用についても事前に尋ねることも助言が必要。経済的課題による医療離れがあることを支援者は認識してほしい。ガイドブック P5 の疑いチェックリストの紹介。ワンストップとして設置された若年性認知症相談窓口の紹介。若年性認知症支援コーディネーター役割の説明。
3	制度	働き方の見直しに伴い減収するため、制度を駆使することは必須。まず自立支援を活用し、できれば同時に精神障害者保健福祉手帳の活用が初期対応として理想。手帳の優遇措置とその活用を説明。ガイドブック P18 その他の制度について説明。傷病手当金、障害年金について仕組みを説明。併給調整のリスクを把握し説明することが求められる。いきなり介護保険でない。障害者総合支援法を活用し、働く意識を継続することも重要。特に平成 30 年度新設の自立生活支援の展望について紹介。介護保険については最近の傾向である暫定のリスク、ガイドブック P32 の有償ボランティアについて、社会参加活動であることの説明。障害者総合支援法と介護保険の併用と、移行時期の見極めについて今後の課題を伝える。
4	仕事	ガイドブック P25 表を説明し、若年性認知症の人の働き方について説明。職場との調整方法並びに話し合う内容について、P26 チェックリストの活用を紹介。治療と仕事の両立支援について説明。
5	子ども・車・生活・財産	子どもの支援について、親の手帳で奨学金申請へ影響ある。奨学金については常に創設の動きあり、状況をチェックしてほしい。車の運転：認知症診断、認知症薬開始と法制度の説明。認知症者の運転技術、車両保険加入確認の必要性を説明。生活について、これからのことについて本人への指導として、ハンドブック P25～P28 活用を紹介。財産管理についてガイドブック P39 を読み合わせ。表中の表現に一部訂正あり。「判断能力に欠けている」の表記は、「支援を受けて契約書等を理解判断できるか」という表現に修正依頼。
6	相談窓口	交流会、家族会の紹介、相談窓口、資料について説明

(質疑応答) 対応時間なく、不明な点があれば、後日電話で対応しますとお伝えした。

15. アンケート結果： 回答 70 名 回収率 78.6%

問：ハンドブック・ガイドブックの内容（仕上がり具合）について教えてください

	大変良い	良い	ふつう	悪い	大変悪い	無記名
ハンドブック	71.4%	22.9%	4.3%	0%	0%	1.4%
ガイドブック	68.6%	27.1%	4.3%	0%	0%	0%

問 ハンドブック・ガイドブックの次回の改定時に掲載が必要と思われることについて教えてください。

ハンドブックについて：

- ・もう少し読みやすい方がいいと思います。イラストやわかりやすい言葉など。
- ・利用出来る制度について、チャート（この場合は～）を使用して説明するとわかりやすいと思います。
- ・成年後見のことをもう少し詳しく載せて下さい。
- ・運転免許返納について。
- ・エンディングノート、メモリーノートのような、これからどうしたいかといった資料の紹介。
- ・保険の事は気になったので、もっと細かくても良いと思う。
- ・若年性認知症のかたが 80 歳 90 歳になったとしても若年性認知症であるという提議。
- ・Q&A もつけてもらえたら、もっといいかと思う。
- ・わかりやすく、マンガでもと良いと思う。言葉ももっとわかりやすく。例題。
- ・支援を受けた本人、家族の声

ガイドブックについて：

- ・どういう時に若年性認知症を疑うか
- ・いつでも活用できるように A4 の 1/2 のサイズにしたらどうか
- ・診断書の金額例を知りたい。家族に説明するときに活用しやすくなると思う。デイト就労の事を細かく知りたい
- ・事例(対応したときに困ったこと)集を支障のない範囲でのせてもらえたらよいかと思う。

感想：

- ・内容が難しく、個別支援を通して一つ一つ読みとらないと、わかりづらい内容、全く頭に入っていない。
- ・若年性認知症の方を支援するにあたり、細かく説明して頂き、参考になりました。経済的支援、病院受診時のポイントなどあり、もう一度確認していきます。

- ・とても濃い内容で2時間では足りないなと思いました。他職種が連携しなければ支援できないと改めて思いました。
- ・これまでの支援者から、必要なポイントをおさえられていると思うので、わかりやすかった。
- ・インテークの際、聞き漏れ、確認し忘れないような工夫がされており、とてもわかりやすかった。特に併給に関する注意が必要だとわかった。
- ・わかりやすいですが、1回ではわからないので、また受けたいです。
- ・もっと講演時間があると良いと感じました。3時間。
- ・地域資源もあり、とてもよかったです。国民健康保険料の部分が少し難しいと感じました。
- ・詳しく内容が記載されており、大変わかりやすかったです。口頭での説明もわかりやすかったです。

#### 16. 主催者の所感

関心を持って頂いた参加者のみなさんより、次回の改訂にむけての意見を多く頂いた。更に良いハンドブック、ガイドブックの作成に向けて、繋げていきたいと感じた。

以上